



一九九四年にこの町に赴任して、はや十四年目になります。まさに光陰矢のごとです。当時のこの町は、入院施設は皆無、夜間休日は医師不在という厳しい医療過疎状態でした。早速プロジェクトチームを作り、解決策を模索しました。何が足りないか？まず医師や看護師の数が足りない。そして医療や保健福祉サービスを系統的に展開するシステムがない。

診療所運営を改善

最初に取り掛かったのは、赤字経営だった診療所の運営改善でした。赤字では「もの申す」ことができません。幸い一年で

田舎医者でも常に前進

黒字に転換。その勢いで事業計画の骨子を、「三百六十五日二十四時間を、体制の医療整備と保健医療福祉を一体化した包括ケアシステムの構築」とうたい、ついに九八年に包括ケアセンターをオープンさせました。保健センター、有床診療所、

介護支援センター、訪問介護・看護ステーションの複合体で、医師三人、看護師十数人、保健師やヘルパー、介護福祉士、作業療法士ほかメディカルスタッフ計三十余人からなる新システムの稼働が始まりました。医師一人、看護師四人、事務員一人だった九四年からは、革命的な規模拡充です。

その後は各種病気の死亡率の引き下げや、介護保険の利用率の抑制、在宅死亡率の向上など数々の有意義な成果を出し続けました。

もうひとつは、町内のケーブルテレビ(CATV)を利用した健康に関する自主番組の放映です。月に二回、番組を入れ替えています。これがひそかに人気で、楽しみながら無意識のうち健康が啓発されるという「プチ自慢」できそな事業です。

会員は現在、二十三歳から八十五歳までの二百人で、特に老年寄りに大人気です。老いても元気でいることに貢献できる事業だということは間違いなさそうです。

お年寄りに大人気

二〇〇二年には、このシステムの主導で、認知症老人グループホームと学童保育が合体した新しいコンセプトの居住空間をつくり、高齢者対策と少子化対策の融合という点で、全国から注目を浴びました。

外科医を熱烈に志望して医者になった私ですが、郷に入り、今ではすっかり田舎医者です。田舎は都会に勝たねばならぬという気負いで、常に前進することを意識しながら日々、試行錯誤を繰り返しています。(次回予定は福島県)

はま だ くに み 濱田 邦美 10期生1987年卒



CATVのスタジオから。番組内容は、那賀町のホームページ(<http://www.town.tokushima-naka.lg.jp/>)の「那賀町VOD」をクリックすると視聴できる

相生包括ケアセンター

【私の勤務地】平成の大合併で5つの町村が1つになった那賀町は人口約1万人で、一級河川的那珂川の上流に位置する。豪雨地帯ゆえに至る所が杉林で、イノシシや猿が多く生息し、`獣口密度`は人口密度より高い。治水ダムが多い割に、数年前から大規模な土砂災害が度々発生している。